

Code Orange

—Save Life—

	代表者		植村	愛子 (医学 B4 年)		
構成員	木村	剛 (医学 B6 年)	佐伯	晋吾 (医学 B6 年)	坪根	咲里依 (医学 B6 年)
	戸川	文子 (医学 B6 年)	仲野	優 (医学 B6 年)	宮崎	由依 (医学 B6 年)
	鈴木	潤一 (医学 B6 年)	遠山	直弥 (医学 B6 年)	木本	義敬 (医学 B6 年)
	小林	諭史 (医学 B6 年)	飛田野	篤 (医学 B5 年)	久保	直登 (医学 B5 年)
	川口	晃 (医学 B5 年)	山中	雄城 (医学 B5 年)	酒匂	優嘉 (医学 B5 年)
	土肥	聖未 (医学 B5 年)	金谷	妃呂子 (医学 B5 年)	星澤	早紀 (医学 B5 年)
	岡本	菜奈 (医学 B4 年)	加藤	幸多 (医学 B4 年)	荻田	雅子 (医学 B4 年)
	倉田	こなつ (医学 B4 年)	高越	寛之 (医学 B4 年)	馬場	悠花里 (医学 B4 年)
	井上	郁香 (医学 B4 年)	上田	大貴 (医学 B4 年)	片山	尚子 (医学 B4 年)
	吉川	友沙 (医学 B4 年)	石田	眞子 (医学 B3 年)	玉那覇	育子 (医学 B3 年)
	津田	貴子 (医学 B3 年)	藤原	麗 (医学 B3 年)	荒谷	友香 (医学 B3 年)
	猪狩	真由 (医学 B3 年)	魚谷	若葉 (医学 B3 年)	衛藤	麻里子 (医学 B3 年)
	岡田	伊代 (医学 B3 年)	倉重	理歩 (医学 B3 年)	竹内	優佳 (医学 B3 年)
	津田	詩織 (医学 B3 年)	中尾	弥里 (医学 B3 年)	西原	晴菜 (医学 B3 年)
	木原	帆香 (医学 B2 年)	田中	華鈴 (医学 B2 年)	中島	健司 (医学 B2 年)
	縄田	裕之 (医学 B2 年)	濱	華月 (医学 B2 年)	内田	夢乃 (医学 B2 年)
	柳瀬	めぐみ (医学 B2 年)	貞光	里穂 (医学 B2 年)	里田	堇 (医学 B2 年)
	栗田	恵美 (医学 B2 年)	渡辺	恵理 (医学 B2 年)		

1. 2017 年度を振り返って

今期は「飛躍」をテーマに掲げ、①メンバー教育の充実②ファーストエイドの講習に重点を置いて活動した。①に関して、今年度は「Code Orange」創立 10 周年ということもあり、外部から講師を招いての講演会を開催した。普段私達の行っている BLS 講習会について、その活動意義と質の向上について考える機会を持つことで、メンバーのモチベーションが向上したことを実感している。②に関しては、今期から新たに、BLS だけでなくファーストエイドの講習も行った。BLS の講習を目的として講習会に来られる受講者の方が多い中でどれだけ需要のあるものかと最初は不安を感じていたが、予想以上に好評をいただき、多くの方に受講していただいた。「Code Orange」としての活動の幅を広げることができたと感じている。

2. 2017 年度上半期の主な活動内容

- 1) 新規メンバーの勧誘、茶話会
- 2) 安全対策講習会・部活動講習会
- 3) 七夕祭での BLS 講習会
- 4) 第 3 回全国医学生 CPR 選手権大会中四国大会
- 5) ホームカミングデーでのブース展示
- 6) 医学祭での市民のための心肺蘇生講座開催
- 7) 山口大学病院職員対象の BLS 講習会
- 8) 創立 10 周年記念講演
- 9) FM きららカップ宇部駅伝競走大会での救護ボランティア
- 10) その他定期活動（週に 1 度の定例会など）

3. 「Code Orange」内での活動

週に1度、昼休みの約20分間を使って、メンバー内での学習会を行っている。主に4年生が講師となり毎週のテーマに沿った内容をパワーポイントにまとめ、その他のメンバーに講義をしている。内容は、成人BLS、小児・乳児BLSを中心に、基本となる内容の講義・実技を行った。それに加えて、今年は回復体位や応急手当などの講義も行った。その他、各イベントの報告・反省を行い、より良い講習会を作り上げるためにはどうすればいいのか、受講者アンケートの結果をもとに話した。

4. 医学部内での活動

4.1 部活動講習会

昨年度同様、本年度も医学部学務課からの依頼に基づき、学生自治会と共同で、部活動に所属する医学部の大学生（主に2年生）を対象にBLS講習会を行った。ただ今年度は山口大学医学部が、西日本医科学学生総合体育大会（以後、西医体とする）の主幹という事もあり、西医体の安全対策講習会も兼ねた部活動講習会となった。そのため例年の約2倍の人数の受講者103名に対し、17名の構成員が講習を行った。4月に新しく加入したメンバーもインストラクターとして参加し、練習会で身に付けた知識や経験を存分に発揮した。受講者のほとんどがBLSを行うのが初めてであり、この講習会を通して医学教育に貢献することができた。



写真1 部活動講習会参加メンバーの集合写真

4.2 山口大学病院職員対象のBLS

1月に山口大学附属病院で行われた。医師・看護師を除く総勢150名超の職員を対象としたBLS講習会に講師として参加した。この講習会は今年で3年目を迎えた。患者の急変に出くわす可能性があるのは、医師・看護師以外の職員にもあり、その場合には迅速な対応が求められる。病院で従事する方々への講習会も任せられるようになり、「Code Orange」の活動が評価されていると実感するとともに、責任の重さを感じた。他人に教えるための準備を今後もしっかりとしたうえで、多くの人に講習を行っていきたいと思う。

4.3 創立10周年記念講演

創立10周年を記念して、1月28日に外部から講師の先生をお招きしての講演会を開催した。その中で、講習会のスタイルを根本から見直し、市民同士が教え合うような場を提供するという新たな発想を提案していただいたり、「Code Orange」の活動を費用対効果という面からとらえなおしてより質を高めていくことについて教わっ

たりし、貴重な機会となった。当日は「Code Orange」OB・OGの方も大勢来られ、「Code Orange」に対する熱い思いに触れることができ、身が引き締まる思いがした。



写真2 10周年記念講演での集合写真

4.4 頌徳碑清掃

「Code Orange」では、サークル設立当初から月に1回頌徳碑の清掃活動を行っている。頌徳碑とは医学部の大学生の解剖学実習で御献体して下さった方々の御遺骨が収められている場である。医学部の大学生として、その方々への感謝の意を忘れてはならないという思いからこのような活動を行っている。本年度も引き続き毎月1度、清掃活動を行った。



写真3 頌徳碑前での様子

5. 医学部外での活動、および市民に向けた活動

5.1 七夕祭

吉田キャンパスで行われた七夕祭に今年も出展し、BLS についての講習を行った。昨年に引き続き、今年も一般市民を対象とした BLS 講習会と、BLS の基礎知識に関するクイズコーナーを設置した。当日は、大学生を中心に、高校生から 50 代の方まで多くの人に参加してもらい、総受講者数は昨年よりも増え、「Code Orange」の活動を知ってもらう良い機会となった。新メンバーを中心としたメンバーで講習会を運営して行ったことにより、経験を積むこともでき、「Code Orange」にとって得られるものの多かった七夕祭となった。今後も多くの人に BLS を身に付けてもらえるよう活動を広げていきたい。



写真4 七夕祭での講習の様子

5.2 第3回全国医学生 CPR 選手権大会中四国大会

昨年に引き続いて参加したもので、日本臨床救急医学会とレールダルメディカルジャパン共催で開催される、質の高い CPR を啓蒙するためのイベントである。中国四国地区にある大学の医学部の大学生が 5 人 1 チームでチームを組み、3 パターンの CPR を行い、それぞれの CPR の質を競い合った。普段「Code Orange」は山口大学の大学生や講習会を受けに来た人達に教えることが多い中で、このように他大学の同じようなサークルの人達と競い合うことは滅多にない機会であり、とても刺激を受けた。また、評価はコンピュータに基づいて行われるため、自分達の結果が客観的に数値化して評価される。その結果を受け、自分達に足りないものや他のチームの良いところなどが明確に把握でき、今後の課題が分かった。結果は惜しくも全国大会に出場することは出来なかったが、来年またさらにレベルアップして挑戦したい。



写真5 CPR 選手権大会にて手技を行うメンバー

5.3 ホームカミングデーでのブース展示・講習会

10月28日には、「第5回山口大学ホームカミングデー」に医学部企画として出展し、来場者の方に向けてBLS講習会を開催した。小学生のお子さんや妊婦さんにもご参加いただき、定例会で一般の成人に対して行うBLSだけでなく特別な状況下でのBLSについても勉強していた知識を生かす良い機会となった。



写真6 ホームカミングデーでの講習の様子

5.4 医学祭での市民のための心肺蘇生法講習会開催

11月3日、4日の2日間にかけて医学祭で市民のための心肺蘇生講習会を開催した。医学祭は「Code Orange」にとって最も重要視している行事であり、今年度は過去最高の178名の方に受講していただいた。今年度は講習の際、実際の死戦期呼吸の動画をお見せしたり、根拠に基づく説明を意識したりしたことで、受講者の方々により興味を持ち、必要性を感じていただけたのではないかと考えている。また、今年度から新たにファーストエイドのポスター展示・講習を取り入れたが、予想以上に多くの方がファーストエイドの講習を希望された。講習会後のアンケートでは、満足度、理解度の平均は4.71, 4.5点であり、質の高い講習を行うことができたと感じている。



写真7 医学祭での講習の様子

5.5 FM きららカップ宇部駅伝競走大会での救護ボランティア

2月4日に開催されたFM きららカップ第35回宇部駅伝競走大会にて、救護ボランティアとして参加した。このボランティアは毎年宇部市体育協会から依頼を受け、自転車救急隊として参加している。AEDと救急セットを背負い自転車でコースを巡回して、選手のけがや万が一に備えた。また、本部の救護所で救急班として待機し、選手のサポートなどを行った。今年は大きなけがをする選手もおらず、無事大会を終えることができた。また、本部に併設されたテント内で、市民に向けて救命講習を行った。駅伝に参加した選手やその保護者の方が講習会に参加してくださった。「Code Orange」の活動が地域の方に求められているということを実感できた。



写真8 救護隊としてボランティアに参加したメンバー

6. 総括

今年度は「Code Orange」創立10周年ということもあり、これまでの「Code Orange」よりも、さらに飛躍した「Code Orange」となることを目標として活動を行った。特に重点的に行ったファーストエイドの講習では多くの市民から好評を得ることができ、その重要性に気付かされた。BLSだけでなくファーストエイドの講習を行うことで、市民の健康意識を向上させることにもつながったのではないかと感じている。ただ、ファーストエイドについてはまだ知識の浅い部員も多く、今後はますますメンバー教育が必要になると考えている。10周年記念講演では講習のスタイルを根本から見直した、市民同士で教え合う場を作ることを提案していただき、これまで先輩方から受け継いできた講習の方法を見直すきっかけをいただいた。これを機に、これまでの方法にとらわれない新たな形式を模索していきたいと思う。

「Code Orange」の活動の成果というのは、目に見える結果として判断することは難しい。しかし市民による心肺蘇生法の実施は、心停止傷病者の社会復帰において大きな役割を果たすことが分かっている。日本における心臓突然死は年間75,000人といわれる中、私達は少しでも助かる可能性のある命を救いたいと思っている。今後も「Code Orange」の活動を通して少しでも多くの市民に心肺蘇生法を広め、それが山口県内の救命率の向上につながることを切に願っている。